

受28849號

公信第七三號

大正五年十二月六日

在安東

領事代理領事官補田村幸策



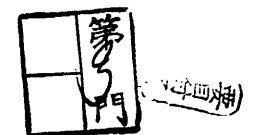
外務大臣法學博士野本野一郎殿

吳俊陞來女ノ件

逃遼鎮守使陸軍中將吳俊陞氏ハ負傷後暫ク支那醫ノ治療ヲ受ケ居リタルモ經過良好ナラズ後我奉天赤十字病院ニ入院スルマ醫療奏効ニ遇ニ切今ヤ瘡傷強ニト全癒シ為メ大ニ我ヲ德トシ居ル類ニ有之候處是ハ従来日本人ト接觸スル機會少ク日本人ヲ了

在安東日本領事館

解スル程度モ自然洩カリシ由聞及候折柄過般野少佐ノ進言ニ基リ張作霖ノ勸メニ傳ヒ十一月廿六日未五龍背温泉ニ滞在更ニ豫後ヲ養ヒツアルヲ好機ニ邦人侶介旁一夕官却ニ宴席ヲ設ケ其来安ヲ求メ候處快ク承諾シ当夜ハ終始頗ル満足ノ態ニ見受ケ申候尚吳ハ歸途鳳凰城ニ立寄リ其友人ナル馬鎮守使方ニ數日滞在ノ上帰任スル由三ノ十二月四日安東ヲ出祭致候右為御参考及報告候敬具



大

MT

11212

01564

MT

11212

01563

REEL No. 1-0060



寫

大正五年十二月九日

在奉天

總領事代理矢田七太郎

在支那

特命全權公使男爵林權助殿

林公使ノ談話トシテ記載セル支那

新聞記事ニ関スル件

本件ニ関シ早速取締方張督軍ニ申入レ其快諾ヲ得タル次第ハ往電第三九一號ヲ以テ不取敢及帝報告置候處本月八日發行ノ東三省公報紙上ニ

在奉天日本總領事館

別紙寫ノ通り有議會議長修元ヨリ更正方申入アリタル趣掲載致居候ニ付此段申進候敬具

本信寫送附先外務大臣

MT

11212

01567

MT

11212

01566

REEL No. 1-0060

照函更正

東三省公報館鑒頃閱十二月五日

貴報奉天欄內載追悼會之公民憤激  
記一則內有(修議長報告遠源交涉日  
林權公使來奉曾諄諄以國交為言如究  
現為奉省大害敵國上田某經預坎事為  
本國查覺送回本國)等語甚為詭異按  
三日之會因追悼黃蔡二公涉及外交事  
件鄙人恐滋事變曾述及報載林公使和  
平之言以調劑會象之憤並未提及兌現  
之事在場多人有耳共聞  
貴報所載想係傳聞之誤即請速予更正  
以昭信實每任盼禱此頌  
撰祺不既 省會議長修兆元鞠躬

在奉天日本總領事館

MT

11212

01569

MT

11212

01568

電信課長 大佐

大臣  
大官  
163

一〇五二時

北陸 本島 大正五年五月廿六日 前七二  
前二三

政務

本野外務大臣

林 公使

通商

第一一三九號

郵部

陸田

人事

石光司令官 徐州南京地方 旅行に改敷囑因

會計

璋の會見、計畫は趣、付當國現下、政情、

文書

顧の右、種之誤解ヲ惹起スル、虞アリト認

ノ齋藤少将ヲ経テ他日適當、機會迄延期ヲ

希望スル旨申送り置キテ齋藤ヨリ同日令官

死電報参謀次長ヨリ御取寄御閱覽ヲ請フ

天津、轉電法

參政官  
副參政官

MT

11212

01570

りふかた

REEL No. 1-0060

第12872號

大正五年三月十三日 警務部

警務部

第一課

檢査官 第六七號

大正五年十二月六日

在瑛春日本領事分館

主任外務通譯生 浦川 昌義

外務大臣子爵本野 一郎 殿

當館ニ關スル吉長日報記事

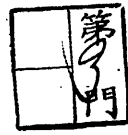
ニ關スル件

客月二十五日發行ノ吉長日報紙上、瑛春交渉之難辨トト題シ別紙寫ノ如キ記事ヲ掲載致居リ候處、往々有軼出範圍之處ト為ス如キ誤聞ニアラサレハ曲解ニシテ穩カナラサル辭

在間島總領事館、瑛春分館

向ト存候處該記事ニ對シ何等カ訂正辨明ノ必要ヲ御認メ相成候ハ、其請求方便宜吉林領事へ可然御電訓相成候様致度此致及稟請候敬具

手紙



四神

MT

11212

01572

MT

11212

01571

REEL No. 1-0060

琿春交涉之難辦 (民國五年十月二十五日)  
吉長日報記事  
琿春地方重要居民又形複雜該處日領對於  
我國交涉聞往往有軼出範圍之處從前善知  
事任內往往遷就之旋何知事據理力爭終  
難收效近自張知事濟剛蒞任以來對於日  
本之交涉苟凡可以曲予通融者無不為之  
通融乃日當道猶不滿足公文辯駁時有予人  
以難堪者蓋其一派手段施行已慣我官吏難  
處處以誠意出之終不滿意亦足見交涉之難  
矣聞張知事日前電請辭職郭有長未予  
照准

在間島總領事館、琿春分館

MT

11212

01573

琿春交渉ノ困難(上月廿五日長日報記事)  
 琿春、重要ノ地ニシテ居民又複雑ヲ形  
 ハセリ該地日本領事ノ我國ニ對スル交  
 渉ハ往々ニシテ範圍超出ノ点アルヲ聞  
 ケリ従前善知事ノ在任中ハ往々之ニ  
 讓歩迎合セシカ其後ノ何知事ハ理論ヲ  
 以テ力爭シタレハ不結果ニ終レリ近頃張  
 濟川知事ノ着任以來日本ニ對スル交渉  
 ニ付テハ苟モ融通ヲ與ヘ得ヘキ事ハ凡テ  
 融通セサルナシ然ルニ日本ノ当局ハ猶ホ  
 之ニ満足セス辯駁公文ヲ之時ニ堪ヘ難キ事ヲ  
 以テセリ蓋シ其施セ一切ノ手段ハ已ニ習慣  
 トナリ我官吏ハ事毎ニ誠意ヲ以テスト虽  
 モ到底満足セス亦々交渉ノ困難ヲ見ルニ  
 足レリ張知事ハ先日電報ニテ辭職ヲ願  
 出テタルカ郭省長ハ未々之ヲ許可セサル由



MT

11212

01575

MT

11212

01574





我亦中日親善ヲ賛成ス

(十二月七日北京中華時報論說)

中日兩國ノ親善ハ地理歴史上世界ノ大勢  
上其ノ必要ナルニトハ言フ後タサレ所ナルモ  
政府ヨリ之ヲ主唱セシハ國民ヨリ主唱スルニ若  
カス國民ヨリ之ヲ主唱セシトスルハ先ツ教育  
未國民ノ心算中ニ蟄結セン惡感情ヲ除  
去セザレバ可カラザルモ是レ決シテ空言ノ能ク爲  
ス所ニアラス日本ノ親善論者ハ先ツ此矣  
ニ注意スルニ緊要ナリ

支那國民ノ外國ニ望ム所ハ(一)我國家ノ  
独立ト尊嚴トヲ尊重スルニ(二)我社會及  
在支那日本公使館

箇人ノ人格ヲ尊重スルニ在リ然レバ此ノ標  
準ヲ以テ日本ノ對支態度ヲ律セハ支那國  
民ノ心中只ク怨恨ト憤怒トアルノミナ  
ノ日支交渉ハ即ケ其一ナリ  
支那ノ將來ハ其ノ教育實業ニツキ外國ノ援  
助ヲ仰ク可キ識者ノ一致スル所ニシテ外國  
ニシテ我國家ヲ尊重シ社會人格ヲ尊重  
スル限リ誠實ノ援助ヲホシントスルニナリ  
日本モ右ノ精神ニ依リ経済的利益ヲ以  
テ希望ノ限度トセハ支那國民モ喜ンテ日  
支親善ヲ求ム可キモ其ノ惡感ハ一朝一夕  
ノ故ニアラザルヲ以テ先ツ日本政府ヨリ徹  
底約親善ノ意思ヲ事實ニ表シ之日

MT

11212

01579

MT

11212

01578

本國之民モ亦其ノ態度ト一言論トヲ改メサル  
 可カラス  
 所謂徹底的親善ノ意思ノ表示中其ノ重ナ  
 ル者ハ第一鄭家屯交涉前ニ滿蒙政策ノ刷新  
 是レナリ鄭家屯問題ニ就テハ日蒙交渉置  
 ト軍事顧問問題トテ残セル由ナルカ後者  
 ハ絶対ニ支那ノ自由意思ニ付ス可キモノ  
 コレヲ協議ノ餘地ナク前者ハ日本側ノ主  
 張ハ其ノ結果民保護ノ為ニシテ雜居權ハ  
 本々モノ由ナレバ滿蒙地方ノ不秩序ハ日  
 本官吏ノ任テモ其責任ヲ負フヘキモノニ  
 テ若シ其ノ政策ヲ刷新セハ地方ノ秩序  
 モ維持セラレ中國官吏ニ於テ日本居留民  
 保護ノ方アルニ至ルハ不秩序雜居以後支那  
 政府ノ法人之ノ股從スルヲトナレハ日本  
 政府ノ必要ナレ又々東蒙地方ハ單々合衆  
 事業ヲ許セルト拘ラス蒙古郭爾羅斯旗  
 ト德惠農安二旗ハ發達所ヲ及ニセト  
 スルハ不啻ナリ日本コレヲ果シテ中日親善ノ真  
 意アラハ本件支那ノ如ク從テ成見ヲ固  
 執シテ新々支那ノ反感ヲ増ス可ラサルナリ  
 日本ハ常ニ滿蒙ノ秩序ヲ云々スルモ其ノ本國  
 ハ皆ナ同國滿蒙政策ノ為ニシテ馬賊ナリ  
 宗社也元ナリ皆ナ附屬地ヲ以テ根柢トセサル  
 ナリ日本官吏取イテテ放任シ或ハ之ヲ保  
 護シ甚ニキハ積極的干渉ヲ加フルモノアリ

在支那日本公使館

MT

11212

01581

MT

11212

01580

其他賣藥業者モルヒネニ於ケル旅館ノ淫  
 賣業、於ケル或ハ詐偽取財高利貸ニ至ル  
 迄日本官吏ニ於テ之ヲ禁止セザルノミナラス  
 ニラ比護スルモノサエアリ支那官吏、於テ  
 ニラ取締ラントスルモ外ラ妙害セラレ其目  
 的ヲ達スルヲ能ハス日本ハ日支親善ノ為ニ  
 滿蒙政策ノ根本的刷新ヲ計リ我カ官  
 吏ヲ以テ自ら地方ノ秩序ヲ改良セシメザル  
 可ラス  
 然レモ政府ハ國民ノ代表ニ當ラス而國民局  
 々々情ナクシハ其ノ親善ハ期ス可ラス日本  
 國民ハ袁政府時代、於テ袁氏個人ニ對  
 スルト共ニ我カ國民ヲモ侮辱スル所アリ有方  
 ナル新聞紙、於テモ然リ故ニ先ツ新聞紙ヨリ  
 其ノ如キ意見及テ改ムルト共ニ改ハ新聞紙ノ交  
 際、於テモ日本人驕盈ノ氣ハ人ヲ千里ノ外  
 ニ遠ケントスルモノアリ今時ニ此風ヲ改ムルニ  
 アラサレハ我カ國民ト直ニ實ノ握手ヲ期スル  
 ヲ能ハス  
 要スルニ政府親善ハ易キモ國民親善ハ難  
 三況ニ甚感甚々深キノ今日日本政府  
 ト其ノ國民トニ對シ相宜ノ覚悟ト忍耐  
 トヲ望マサルヲ得ス云々、

在支那日本公使館

MT

11212

01583

MT

11212

01582

羽音

第13062號

大正五年十二月廿一日 接受

六三

大正五年十二月十三日

在吉林

領事代理

澤田 暲

外務大臣 法學博士 子爵 本野 一郎 殿

吉林督軍 孟恩遠 來訪 關件

本件ニ關シテハ十一月二十八日付機密公第五八號

並ニ十二月四日付機密公第六〇號 機密中ニ申

進置候次第有之候処十二月八日午後二時督

軍署顧問 陳慶麟 來訪 高參謀長ハ豫テ旅

シアリタル通り 孟督軍ノ名代トシテ 同顧問 及ヒ今

在吉林日本領事館

田ノ一行中ニ加ハルニ付 同七日省長ノ同意ヲ得

タル 陶道尹ノ兩名ヲ件ニ愈々本月替當地ヲ發

シ 旅臺日 長春 出立 十二日 旅順 着ノ日 取ニ確

定ニタルニ付 右預メ 當館ヨリ 都督府ニ轉達方

手數煩度 旨申出アリ 依テ直ニ扶諾ノ上 同

府發電 致シ 尚同日 往電 第九八號ノ通リ電

報 致置 置名 次第ニ有之候 然ルニ 陳顧問ハ 同

日 辭シ 去ルニ 先々 孟督軍ハ 翌日 小官ヲ 答給

シタル 希望アリ 都合 如何ト 問ヒタルニ 付 差 函

ナキ 旨 答置 候

十二月九日 午後二時 孟督軍ハ 陳顧問ヲ 伴ヒ

約ノ 如ク 來訪シタルヲ 寒暄 叙シ了ルヤ 同督軍

ハ 先ツ 小官ニ 對スル 答訪ノ 甚夕 帰レル 断ハリ 速ニ

MT

11212

01585

MT

11212

01584

REEL No. 1-0060

次ヲ其末春ニ於テ使ス中村都督ヲ旅順ニ訪  
 問スヘキ心担ナルヲ言ヒ同時ニ頃日傳ヘテ、如ク  
 都督カ軍事參議官ニ昇任シ現地位ヲ離セル  
 事ニ付トノ事、事實ナリヤト問ヒ居タルニ付小官ハ之  
 ニ對シ矢張新聞紙上ニ見タルノミテ其真偽ヲ  
 知ラスト答ヘ置候夫レヨリ互ニ閑談ニ移リ五督  
 軍ニ進ミ種々物語リヨナレ其元來身体極カテ  
 壯健ニシテ嘗テ疾病ニ罹リタレトナカリレニ拘ラス  
 近來兎角食欲心進マズ或ハ時ニ嘔吐ヲ催ス事  
 アリ為ニ殆ヘス持藥ヲ用キ居レリ而カモ時々發  
 作ヲ免ケテス當館ニ來訪ノ際ニタルモ全ク之  
 為ナリト語リ尚其十九歳ノ頃ヨリ一兵卒トシテ直  
 隸省小站ニ在リ軍隊生活ニ入りテヨリ既ニ四十  
 年其間操練ノ如キモ英、独、日本等各國武ノ  
 教練ヲ受ケ日本軍人中青木、阪西、立花諸將  
 軍ノ如キハ小站時代ニ於テ其教ヲ受ケ熟識ノ間  
 柄ナリ而シテ吉林來任以來最早滿九年ニ盡シ  
 トシ其間偶々國家最モ多事ノ秋ニ際シ殊ニ  
 吉林ノ地方タルマ日露ニ強ク介在セルヲ以テ  
 關係極メテ大劫ニシテ其地方治安ノ維持ト各國  
 居留民保護ノ事ニ就テハ最モ重キヲ置カサルヲ  
 得ス依テ自分ニ於テハ常ニ事端ノ發生ヲ未然ニ  
 防キ若シ不幸ニシテ問題ヲ生スルトアルモ誠心事  
 ヲ處スルヲ念トシ來リ右ハ此地ニ在任最モ永ク  
 シ林領事ヲ初メ歴代ノ貴國領事ニ於テ恐  
 フク均ク認メ居ル儀ト信シ居リ又自分、折テ

在吉林日本領事館

MT

11212

01587

MT

11212

01586

八両國間ノ公事ニ個人ノ交友ニ共ニ信義ニ依  
 ラサレハ人心服ヲ得難ク亦事ニ益ナリト信シ居  
 今後ニ於テモ此精神ヲ以テ事ニ當リ苟モ任ニ吉  
 林ニ在ル間ハ治安維持ト外國人ノ保護トニ全力  
 ヲ注ク考ナルニ付貴領事ニ於テモ之ヲ諒トセラレ  
 今後相互ニ誠ヲ用キ公ヲ布キ以テ親睦ヲ計リ  
 タリト述ヘ居タルニ付右ニ對シ是レ當方ノ最モ希望  
 ニ堪ヘサル所ニシテ日本トシテ關係最モ緊要ナル  
 當吉林地方、於テ既ニ閱歷、富ニ且ツ國交上  
 ニ付斯ク慎重ノ念慮ヲ有シスル貴督軍ノ如キ  
 人ニシテ永ク其任ニ居ラハ最モ幸トスル所ナルヲ  
 信スト答置候次ニ孟督軍ハ日本ニ於ケル軍事  
 教育並ニ般軍事ノ進歩程度ヲ激賞シ殊ニ  
 在吉林日本領事館  
 其軍人養成、就キ士官學校卒業後各階級  
 ヲ經教多ク經驗ヲ積ミ且ツ年齡四五十ニ及ビ  
 而モ最モ優秀ナルモノニシテ始メテ上級佐官又ハ將  
 官タルヲ得ル一事ハ熱心研鑽ト堅忍心ノ精神ト  
 餘儀ナカラシムルモノニシテ右進歩ノ一因タリ然ルニ支  
 那ニ在テハ今ヤ前清時代ニ於テ二十歳前後ノ青年  
 其王爺名門タルノ故ヲ以テ全ク軍事知識  
 無キニ拘ハズ直々ニ重要軍務ニ當ラシメタル如  
 キニト無キニ至リタレトモ尚學子校ヲ出テ、數年ナキ  
 シテ早クモ少將中將ヲ得ル者アリ從テ海外留  
 學子出身者中ニ是ル例ニ慣レ歸國後直々ニ團  
 長旅長ニ就クヲ得サレハ満足シ難キ者多キ  
 傾アリ踪進ノ弊一々甚ク大ナリ要スルニ軍事ニ

MT

11212

01589

MT

11212

01588



就テ云ハ日本ノ軍隊ハ實ニ完全ニシテ其將校  
 ノ如キモ學理實戰共ニ優越ニシテ 歐洲各國中  
 於ケル獨逸ト比肩スルニ並ビ稱セラル、ニ足レリナト語  
 ノ尚其經歷ニ關スル談トシテ二十餘年、直リ袁  
 世凱ノ身辺ニ仕ヘ其恩顧ヲ受ケタルコト亦最モ深  
 カリシヲ語リ其帝制企畫ノ初期ニ當リ偶々入京  
 中ナリシヲ以テ袁克定ニ對シ恐ラリ尚數年ハ早カ  
 ルヘキヲ以テ暫クテ大勢ノ定マレテ待ツ、如カスト諫メ  
 徐世昌亦克定ノ希望ニ反對ナリシモ遂ニ彼  
 如ク多心進ニ為シ敗地ニ墜レタル次第ニシテ金ヲ克  
 定等カ足ラトテ知ラズ且ツ徒ニ焦急リタルノ致ス所  
 ニシテ假リ、更ニ四五年ヲ待ツ得タルニハ袁家ノ  
 帝政ハ確カニ容易ニ成立スルヲ得テ暫クハ安固  
 在吉林日本領事館  
 ナリシヲ疑ハスト申居候次テ歐洲戰爭ニ言及  
 シ小官ハ日本ノ如キハ今回歐戰ノ為メ各國ヨリ各  
 種軍需品其他ノ注文ヲ受ケテ之ヲ供給シタル為メ  
 一個ノ大商人及會社等ニテ一、二千萬圓ノ利益ヲ  
 獲タルモノ少カズ戰爭ノ為メ激増シタル國富ハ寧  
 ニ數億ノ巨ニ及ヘリ即シテ其原因一ツニテ足ラ  
 サシモ各種製造工業甚ク盛ニシテ利源ノ開發ニ  
 遺漏ナク資本ノ應用亦其宜シキヲ得テ等ハ地心  
 ラク其主要ナルモノハ支那ニ於テモ從來其極メテ  
 豊富ナル原料ヲ利用シ製造工業ヲ獎勵シ居  
 タラレハ、今回ノ大戰ニ際シ各國ニ對シ少クモ其  
 一部合ノ注文ニ應ジ民利國富ヲ増スコト得タルヘキ、  
 是レ一準備充足ス省々々富民富國ノ好機ヲ

MT

11212

01591

MT

11212

01590



逸シワアルハ惜ムヘク殊々屢次国内政治上、變革  
 為ノ官民共ニ末々實業ヲ振興スルニ熱心ナラス  
 且ツ往々大ニ利用スヘキ外資ヲ忌心シ抑シテ商民等  
 於テ<sup>外交</sup>交渉問題起ル際シ一部ノ煽動ニ集  
 セラレ徒ラニ擾々ヲ極メ更ニ無心ノ學校生徒並ニ正  
 直ナル<sup>郷農</sup>等ヲ煽惑シ其本務ヲ閑却シ何等  
 得ル所ナキカキハ餘リニ思慮ナシト謂フヘク依テ今  
 後ニ於テハ貴督軍初ノ貴省官憲ニ於テモ大ニ  
 實業ヲ奨励シテ令天然ノ利源ヲ開發セムル  
 ニ如クモシテハ如何即シテ右ニ就キ針山經營及其他  
 フ間ハス應用其宜シキヲ要スルハ資本ト技術ニシテ  
 今後最モ容易ニ之ヲ供給シ得ル地位ニ在ル者ハ  
 日本ナルヲ疑ハサルニ付督軍ニ於テモ後日ノ為メ之ヲ  
 在吉林日本領事館  
 記セラレント希望ニ堪ヘス關稅塩款等大宗ノ  
 收入ヲ合スルニ國用ニ足ラサル今日吉林省ノ如キハ  
 大ニ<sup>鐵山</sup>等天然ノ利源ヲ多ク益々興スヘキ非  
 スト述ヘタル<sup>孟督軍</sup>モ類ノ首肯致戻候  
 依テ更ニ小官ヨリ同督軍ニ對シ頃日北京ニ於テ  
 ル老西開及鄭家屯交渉問題ノ進行如何ニ實  
 シ何等中央ヨリ聞ク所ナキヤ又孟督軍自身ノ  
 考ハ如何ナリヤト問ヒタルニ同督軍ハ曩々老西開  
 題ニ對シ復次長ノ執リタル態度ハ内ニ對シテ餘  
 リニ請合ヒ過キ且ツ大ニ内ヲ騷カシメテ外ニ對スル  
 便セトシ信意心ヲ欠ケル傾アリ為ニ<sup>總</sup>チ方タル<sup>側</sup>側  
 側ノ感觸ヲ傷ケ自ラ遂ニ兩難ニ陥リタリ然ルニ  
 今回ハ太子<sup>錫</sup>章時代既ニ外交ニ名アリ老練誠實

MT

11212 01593

MT

11212 01592

ナル伍廷芳其局ニ當リ貴國當局者トモ相親シ  
 キ件ナルハキニ付遼源案ノ如キニ適當ニ解決セラル  
 日表カサルヘキヲ疑ハス國民ニ於テモ静カニ此ノ  
 解決ヲ待タハ可也次第ニシテ此際局外者ニ於テ  
 徒ラ騷キ立ルハ何等益ナキ均シ尤モ当地ニ於  
 テル教育界ト及報界トノ者等ニ於テ多少ノ會  
 合論議シ居レルモ右ハ別ニ重キヲ置クノ價值ナ  
 シ只省議會ノ如キハ法定機關ニシテ無責任ナル  
 集會ト同シラス依テ妄言妄動ヲナス如キニト断  
 シテ無之様量表ニ取テ計ヒ置キテ又煽動  
 傳單等取締リ方ニ就テモ既ニ警察ノ腕側  
 命ニ付リト答ヘタルニ付小官ハ尚本件ニ関シテハ過  
 般度前任天野領事ヨリ郭省長ヘ申出タル次第  
 在吉林日本領事館

アルトモト督軍ハ其内容ニ付當時兼知ナリヤト  
 尋リネズニ同省長ヨリ都テ相談アリ知悉シ居  
 レリト亦ハタルヲ以テ小官ハ更ニ國債維持會ニ言  
 及シ斯ル團體ハ其名稱規則ノ如キ外包表皮ハ  
 實ニ角重ニテ所ハ其精神ト實際ノ作用トニ在ル  
 次第ニシテ今日一部煽動者等ヲシテ只單ニ一時  
 ノ快ヲ稱シルル為ノ實際ノ利害關係アル兩國商  
 民ノ休戚ヲ犠牲トシ林業ヲ擧ゲ痛心セシムル如キハ  
 甚ク面白カズ又學生等青年者及正直ナル  
 田舎者等ノ附和雷同ノ煽動ニカキ如キ者等  
 ハ重シクノ價值ナシトハキ其影響者ハ決シテ其  
 モノニアラス今後共督軍ノ注意ヲ求ムル旨申置  
 候処同督軍モ首肯シ此事ニ就テハ尚相長

MT

11212

01595

MT

11212

01594

トモ誤レ置クヘイト申居候  
 前途ノ次第ハ聊カ疎末ニ涉リ候点モ可有  
 之ハモ要スルニ孟督軍ニ於テ當日小官ニ対ス  
 ル答訪ヲイタルニ際シ暢談約ニ時間ニ及ヒ上  
 機嫌ニ立歸リタル次第ニ有之即シテ其答礼ノ  
 辱レタルモ全ク他意ハアリタル為ニ非サルハ小官ノ確  
 信スル所ニ有之候  
 此段及報告候敬具  
 寫送付先  
 北京、奉天、長春

在吉林日本領事館

MT

11212

01596

第13082號

大正五年正月廿二日接受

駐政務官

第一課

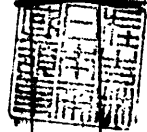
機密第六四

大正五年十二月十六日

在吉林

領事代理

洋子星



外務大臣法學博士子爵本野一郎殿

機密公第六三號拙信寫中村閣東

都督、送付、関スル件

吉林督軍孟恩遠來訪、件、関スル十二月

月十三日付機密公第六三號拙信、其内容

閣東都督府、関スル、有之候ノミナラス、頃日接

受致候中村都督ヨリ、來書中ニモ私信ニ有

在吉林日本領事館

之候得共「吉林省」我々都督府ト、關係ハ、將

来何事、就テモ一層緊密、狀態ニ有之

意思疎通候様致度希望スル旨申越、有

之候、旁々寫本日付ヲ以テ中村都督、及送付

置候間御承認相成度此段申進候、敬具

MT

11212

01538

MT

11212

01597

第13115號

大正五年三月廿三日接受

機外第一七五號

大正五年十二月十八日

關東都督男爵中村 覺

外務大臣子爵本野一郎殿

孟吉林將軍代理來順之函スル件

孟督軍カ答禮ノ為代理ヲ派シテ本官ヲ来  
訪セシムル事候ノ事候ニ関シテハ既ニ在  
吉林深澤領事代理ヨリノ報告ニ據リテ要  
曲以テ承知ノ通ニ有之ニ要ト高条様ニ陳  
頭向陶吉長道尹啓吉長道尹公署第一科  
長ト同道本月十二日午前旅順着本官ヲ訪

關東都督府

向シ孟督軍ハ目下病氣ノ為旅行シ難キニ  
付明春三四月頃親シク旅順ヲ往訪スルキ  
モ不取敢高条様長ヲシテ督軍ニ代リテ答  
禮ノ為本官ヲ来訪セシメタル旨ヲ語リタ  
カ一行ニ夫ヨリ民政部陸軍部要港部要  
塞司令部ヲ歴訪シ方六十三聯隊ヲ見學シ  
テ同夜当地ヤマトホテルニ一泊シ翌十三日午  
前工科學堂ヲ見學シテ午後大連ニ赴キ滿洲  
側ノ款匣ヲ交テ翌十四日歸途、舟ヲ乘リ  
ハ高条様此取及作苦也

助之助

MT

11212

01600

MT

11212

01599

附屬書類添附

大正五年三月廿五日接受

管正務長

第一課

別紙添付

南領機密第五三號

大正五年十二月十八日

在南京

領事 高尾亨



大正五年三月卅一日接受

外務大臣子爵本野一郎殿

大正五年三月卅一日發送済

書内録

東京日日新聞記者田中收吉ニ付ス  
馮副總統ノ談話要領報告ノ件

東京日日新聞記者田中收吉北滿北支方面ノ旅行ヲ終レテ十二月十五日來埠致シ馮副總統、面會ノ希望申出有之同時、面會ノ際ニハ時局今後見ハミ等ニ關シ少シク立入リタル質問ヲモ試ミ度ト思フ処差支ナカレバヤトノ事ニ有之質問本官ハ足下ノ如ク政府ト何等關係ナキ民間ノ人ナリハ寧ロ進ニテ腹藏ナキ意見ヲ交換スルコト却テ望マシヤ旨ヲ答、置テ結果十二月十六日會談ノ要領ナリトテ紹介、為メ同行セシメタル清野書記生ヨリ別紙ノ通り復命有之右ニ於テハ馮ニ於テハ未ダ嘗テ口外セザリシ無遠慮ノ意見ヲ又漏ラシ居ルヤコト考ヘラシ時節極御參考ノ一端迄ニ及報告置テ敬具

在南京日本領事館

大正五年三月卅一日發送済

MT

11212

01602

MT

11212

01601

大正五年十二月十六日馮副總統カ東京  
日日新聞記者田中收吉氏ニナシ夕  
ル談話要領

一 泰西諸國が支那ヲ助ケントスルモ及ハサル次  
第ナレハ東亞ノ前途ハ日本カ支那ニ真正ノ  
援助ヲ爲ハ以テ平和ヲ鞏固立スル以外ニ  
余ナカルヘレト思考ス支那ニ對スル日本ノ眞  
正ノ援助トハ支那ニ動乱ヲ起ラシメザン様  
ニカカスル事ナリ支那ニ動乱アラハ日本ノ  
蒙ル經濟上ノ惡影響ハ少ナカラサルハ然  
ラハ支那ノ平和維持ニカカル事ハ又以テ  
日本ノ爲メナレハ  
一 現下支那ニ於テ何時爆發スルヤモ計リ

在南京日本領事館

難キ一種陰惡ナル暗流有ルハ予モ之ヲ認ム而  
シテ革命ナレバ其成レルノ日ニ成ルニ非スレ  
テ其休テ来ルヤハ予ノ原因アリト謂フモノ  
ヲ予モ之ヲ否マス然ラハ之レカ爲メ多クノ義  
性ヲ排フニヤヨ盛ニ爆發スヘキモノハ之ヲ速カ  
ニ爆發セシムルヲ可トナスコト似タリト尙支那現  
在ノ暗流ハ爆發セシムルモノニ非ス抑モ支  
那ノ革命ハ其性質ニ於テ三段ノ變化ヲナセ  
リ第一ハ種族ノ革命ニシテ則チ滿人ニ  
對スル漢人ノ反抗ノ結果滿洲政府ハ倒シ  
民國政府ハ成リ第二ハ政治革命ニシテ  
民國政府ノ首腦者ニ袁世凱氏ハ其黨ヲ  
壓迫シタル末帝制ヲ廃カシト欲シタル結果

MT

11212

01604

MT

11212

01603

其反動トシテ民党起リ而共和政府成リ  
袁氏ハ倒レテ今ヤ爆發セルトス  
第三次革命ハ事権革命ニシテ總統總理各  
部總長次長等ノ中央機關及督軍省長等  
地方機關ヨリ悉ク旧派ノ人士ヲ駆逐シテ  
新人之ヲ代ラントシテ先ツ旧人ノ頼ミトスル北洋  
武人派ヲ瓦解シテ軍權ヲ收メテ文權  
ヲ奪ハント企圖スルモノナリカ素ヨリ彼等ノ力  
ノミヲ以テテハ之ヲ遂行シ能フハヤニ非シ  
ハヤラスヤ或功ノ曉ニ或ル利権ヲ讓渡ス  
トキ条件ノ下ニ私チ日本ノ援助ヲ乞フハ  
シ日本カ之ニ對シテ當テ民党ニ其ハツルガ如ク  
援助ヲ其ノ革命ヲ遂行セシムルニ於テハ其  
結果ハ果シテ如何如此ニシテ予ガ死後ニ於テ  
ナリトモ將來永遠ノ平和ヲ得ルコトアラスハ是  
レ予ノ眼識ノ足ラザル所ナランヤ予カ今日ノ  
觀察ニ於テハ甚ク所謂新人ナルモノハ軍ニ  
政權ヲ欲スルノミニシテ方策ノ定見アルナリ破  
壞ハ知シテ建設ヲ思ハサルノ徒ナリハ彼等カ  
為サント欲スル革命ヲナシ得テ廢ラストコトモ  
ハ更ラニ甚クシテ混乱ナルヘシト信ス去レハ  
現今ニ處シテ最モ良好ナル策ハ中央地方共  
ニ在リテ之ヲ輔ケ相並ヒテ國家ノ為メニ努力  
スルヲ徐クニ調和ヲ期スルニ在リト信ス  
故ニ日本カ支那ニ其ヲ眞正ナル援助トハ

在南京日本領事館

MT

11212 01606

MT

11212 01605



支那ノ動乱ヲ未だニ防ナク支那ヲシテ如上ノ  
 目的ヲ達セシムルニ在ルヘク其目的ヲ達スルニ  
 ニハ兩國政府ハ固ク握手スル事ヲ要シ握  
 キテ是レヲ疑念ノ誤解ヲ掃スル事ヲ要シ  
 疑念ノ誤解ヲ掃スルニハ支那ハ日本ニ  
 讓渡スルハ其利権ハ速カニ之ヲ讓渡シ支那  
 ナ保持スルハ其利権ハ日本ニ之ヲ確認シテ兩國  
 ヲ民間ノ經濟ノ連結ヲ作ルニ在ルベシ第  
 三國ハ日本ガ支那ニ政治干渉ヲナスニ於テ  
 コソ異議ヲ唱フヘト其經濟的援助ヲ  
 與フルニ於テハ何等ノ故障アルハキ苦ナシト  
 信ス段總理ハ或ハ國強カラザル限リハ利

在南京日本領事館

権ヲ日本ノタメニ開放セザルヘト主張シ  
 ナラズル事ハ理レ居ル百ノ富ハ直ニ相共ニ費  
 堀シテ均分スルニ如キサルヲ思フ役ノ主張ハ三四  
 十年後ニ於テモ尚ホ且實行レ難キコトナ  
 ルヲモテカ主張ハ直ニ之ヲ實行レ得テ而テ  
 毛重ニ利益アリ而シテ支那人一個ノ力ヲ成レ  
 能ハサル事業ニシテ外人ト共同ヲ要スル  
 合ハ先ツ日本人ヲ撰可キモノナリト思考ス  
 一チ右ハ事カ意ヲ招クナキヲ保シ難ケレバ公  
 表セラシガシテ望ム高キ又民衆ニ開スル  
 前頭ノ意見ハ支那ノ政治的見地ヨリシテ  
 全党ノ現状ヲ中ハタルニ過ナスシテ予ハ全党

MT

11212

01608

MT

11212

01607

一、反對者ニ非レハ非難シムニアラス  
 現下ノ事情ハ予カ当地ヲ離ルルヲ許サザン  
 モノアレハ曹汝霖氏ニ代リテ日本ニ赴クコト  
 ハ差当リ不可能ナレバ憲法制定セヨシ事  
 態漸ク平靜ニ成サハヤラス日本ニ持ヒテ  
 朝野ノ人士ト意見ヲ交換セント欲ス(終)

在南京日本領事館

MT

11212

MT

11212

01609

REEL No. 1-0060





ノ後リヲ以テ多河ノ解決ヲ計ルニ中身  
脅迫的暴行ヲ弄レタル者ニ有テ  
尋テ去ルハ日代表十餘人ハ総統府  
赴キ總統府ヲ謁見シ其代表者ヲ政  
府ニ於テ警憲及軍事顧問問題  
等ヲ系統セテウケテ於テ其三者人民  
一既ニ愛護ノ松葉勅ヲ受ケルニ付第一  
不規則ノ解部ヲ為スモノアルヤニ  
料ヲ難ク事ニテ然ラニ抑リ東三省ノ  
破裂ノ事ナラス内訌ニ至ラズ安全ヲ得  
難カラント述ヘ其他ノ者ハ表司候中  
生極強硬ナル意見ヲ傳達シテ引取  
ラザリトノコトニ有テ多

在支那日本公使館

亦ハ過日曹汝霖特使派選問題ハ蒙  
議院ノ意向要求トナリ先聖日民衆側  
議員カ前後恣ニナシテ総統府ヲ押接  
ケ黎孫院ニ對シテ封鎖意見ヲ面陳シ  
ニテアル内第一團ハ東三省蒙台直轄  
山東ノ北方派員數十名ヲ減リ  
事實方々々々恣ニナシテ北方派員カ  
首トシテ反對運動ヲ振リ起ス  
院廊下ニ於テ曹汝霖ノ事相ニ  
一經秘密ニ其人等ヲ有シ東三省  
問題鄭家屯問題及山東問題ヲ各  
ノ以テ年々日方交渉二十一年條  
ニ重大ノ據カシ日東ノ約ニ其ノ援

MT

11212

01615

MT

11212

01611

助、依り北方政府維持ノ魂腰アリ  
 ト、流説ヲ散布セル者アリ、儲コソ  
 右北方派員ノ聯合運動トナリ、  
 次第ナリト記、官僚側、新少者  
 之中、二ハ流説ノ散布者、即  
 チ吳景濂ナリト記、新少者  
 又、有之者、右吳景濂、孫不仁、  
 國より確知ス、一ナリ、無之者、  
 可、等、内、考、迄、在、併、セ、  
 人、多、也、  
 七、  
 及、中、  
 報、

在支那日本公使館

MT

11212

01616

REEL No. 1-0060

0466